

# 防災会からのお知らせ

**夏の風物詩、花火、しかし、花火はたいへん危険です！**

花火の事故は、幼い子ほど件数が多くなっています。ケガは9割がやけどですが、それ以外では花火の破裂した破片が目、口などに入った、すり傷や打撲を負った、視力、聴力が低下したなど、中には失明した子どももいます。

やけどした場合はまず、患部を流水で冷してください。服が患部にくっついていいる時は、服を無理に脱がせないでそのまま流水で冷やした方がよいでしょう。その後、すぐに医師の治療を受けてください。どのやけども同じ事が言えるのですが、病院へ行く前に、流水で冷すだけにし、薬などは塗って行かないでください。薬を塗っていくと、まずそれらを取り除く処置から始めなければなりません。

**絶対にベランダや通路で花火はしない。**

